

## 米ぬかでクワシロカイガラムシを抑える

平成11年に県内で初めて確認されたチャの害虫のクワシロカイガラムシ(以下クワシロ)は防除することが難しく、各地域で発生して問題となっています。

クワシロの発生生態を調べたところ、埼玉県ではクワシロは年3回発生し、主要な天敵はヒメアカホシテントウであることがわかりました。クワシロは防除が難しい害虫ですが、幼虫発生期の薬剤散布に加えて、米ぬかを茶株内に施用するとクワシロの発生を抑えることができました。

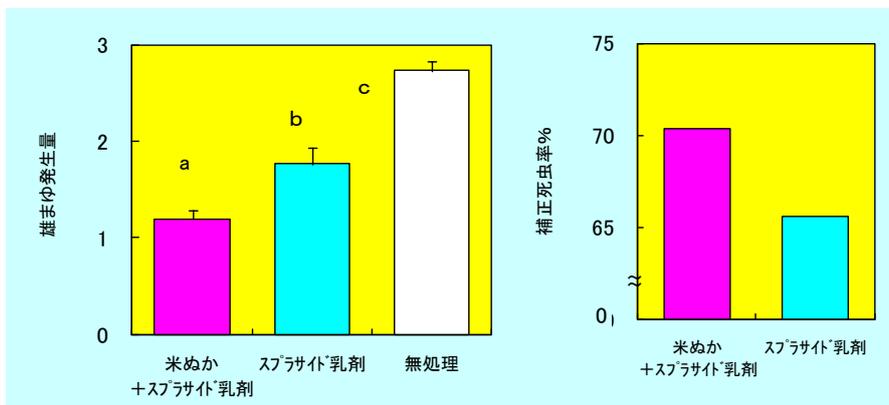
表 埼玉県におけるクワシロカイガラムシのふ化幼虫発生期

世代	時期
第1世代	5月下旬～6月上旬
第2世代	7月下旬～8月上旬
第3世代	9月下旬～10月上旬

●クワシロは年3回発生しています。幼虫発生のピーク時に登録薬剤を散布することが重要です。



●クワシロの主要な天敵「ヒメアカホシテントウ」成虫(左)と幼虫(右) ナミテントウに似ていますが体は小さく、はねには縁があります。



●クワシロ第3世代幼虫に対するスプラサイド乳剤散布後の米ぬか処理の効果  
幼虫発生期の薬剤防除の後や降雨後に、米ぬか(40kg/10a相当量)を、茶樹の枝に付着するように散布すると高い効果が得られます。